



テクノファNEWS

ニュース・ダイジェスト

◆◆ ISO29990:2010「非公式の教育・訓練のための学習サービスサービスプロバイダーに対する基本的要求事項」が発行される

ISO29990規格は、職業訓練、生活学習、社内研修のような非公式の教育・訓練の質の向上を目的とし、透明性を促進して学習サービスの世界規模での比較を可能にするものである。現在、グローバルな知識社会では学習の経済的重要性が増すことによって、営利目的の学習サービス提供により生みだされる人材育成の新しいビジネス・チャンスが増加している。

このような状況で、非公式の教育・訓練の品質が改めて競争力の源泉であるという認識が強まっている。ISO29990:2010の目的は、質の高い実務やパフォーマンスの一般的なモデルや、非公式な教育、研修及び開発の設計、開発、提供において学習サービスプロバイダー(LSPs)及びそのクライアントに共通の要求事項を提供することである。

規格では教育サービスプロバイダーの力量に言及しており、組織や個人が自分たちの要求事項や力量及び能力の開発に対する期待を満たす教育サービスプロバイダーを選ぶ一助になる。加えて、ISO29990:2010は学習サービスプロバイダーの認証にも使われると予想される。核心要素は、教育または研修の品質及び有効性と知識伝達の向上を確実にすると同時に、提供される学習サービスの透明性及び比較可能性を促進することである。

<http://www.iso.org/iso/pressrelease.htm?refid=Ref1384>

◆◆ ISO/IEC 17021:2006 から ISO/IEC 17021:2010 マネジメントシステム認定への移行のためのIAF 参考文書案の公表

日本適合性認定協会は、ISO/IEC 17021:2006 から ISO/IEC 17021:2010 マネジメントシステム認定への移行のための IAF 参考文書 (IAF 投票用最終案) 及び、その参考訳を公表した。当該文書は IAF にて審議中であり正式に発行されていないが、円滑な移行準備を進めるため、参考情報として公表したものである。

[Information on the Transition of Management System Accreditation to ISO/IEC 17021:2010 from ISO/IEC 17021:2006 \(IAF ID x:2010 \) draft \(PDF 128KB \)](#)

[ISO/IEC 17021:2006 から ISO/IEC 17021:2010 マネジメントシステム認定への移行のための IAF 参考文書 \(参考訳 \) \(PDF 257KB \)](#)

【ニュース】 マネジメントシステム関連のニュース・ダイジェスト、テクノファ最新ニュース …1~2

【講演】 「ISOマネジメントシステム規格を巡る話題」

株式会社テクノファ代表取締役 平林良人 …3~8

テクノファ最新ニュース

■ ISO50001（エネルギーマネジメントシステム）関連セミナーのご紹介 ■

各国のエネルギー事情や地球温暖化問題などを背景に、エネルギーマネジメントに特化し、要求事項を含んだマネジメントシステムとして、エネルギーマネジメントシステム（EnMS）規格ISO50001の策定が進んでいます（2011年4月頃発行予定）。

テクノファでは、ISO50001策定にあわせ、2011年度より、「ISO50001規格入門・構築実践コース」、**「ISO50001審査員資格拡大研修コース」（要員認証機関承認申請予定）**の2つのコースを新設いたします。

○ISO50001規格入門・構築実践コース【コースID：TN61】

規格を初めて学ぶ方のためのコース。ISO50001の規格要求事項の解説を通して全体像を理解するとともに、企業において効率的なエネルギー管理をするため、EMSを活用したエネルギーマネジメントシステム構築について、1日で実践的に学べます。

- ◆対象：ISO50001初学者、EnMSの構築を検討している企業の担当者など
- ◆日数：1日（10時開始、17時終了）
- ◆受講料：28,000円（税込）/テクノファ会員25,200円（税込）

○ISO50001審査員資格拡大研修コース（要員認証機関承認申請予定）【コースID：TN25】

EMS審査員の方がEnMS審査員を目指すための最短3日間コース。EMSとの共通部分を省き、EnMS固有の部分に焦点をあてています。ISO50001のエキスパートによるわかりやすい指導により、EnMS審査員に必要な知識とスキルが習得できます。

- ◆対象：EnMS審査員を目指す方、EnMSの構築を検討している企業の担当者など
- ◆日数：3日間（初日9時開始、最終日18時終了）
- ◆受講料：240,000円（税込）/テクノファ会員216,000円（税込）

上記2コースの他に、審査員資格取得のための「ISO50001審査員研修コース」【コースID：TN21】（要員認証機関承認申請予定）の開設も予定しています。詳細が決定次第、ホームページでご案内いたします。

■ 2011年度より、「ヒューマンスキル・人材育成」関連セミナーをいよいよ開始 ■

ISO研修のバイオニアとして、マネジメントシステム関連の研修メニューを数多く提供してまいりましたが、2011年度4月期より新たに人材育成の研修メニューをご提供します。

- ▶ **コミュニケーションスキル向上コース～傾聴・アサーション編～（TM96）**
職場での良好な人間関係・相互信頼関係の構築のための体験型学習コース
- ▶ **ビジネススキル向上コース～目標管理トレーニング～（TM97）**
目標管理とはどうあるべきか 目標管理を通じて個人のモチベーションを上げるにはどうしたらいいかを実践的に学ぶコース
- ▶ **ビジネススキル向上コース～リーダーシップトレーニング～（TM98）**
部下の育成上欠かすことができないリーダーシップを、概念的なものとしてではなくスキルとして学ぶコース

→いずれも詳しい情報はホームページからご確認下さい

■ 第5回環境プランナー・ベーシック資格試験の日程【環境プランニング学会委託】 ■

明日のエコビジョンはあなたが描く～その先のエコへ「エコロジストをめざす方はもちろんエコビープルのステップアップに」企業に一人 環境プランナーを

- ◆試験日：6月18日（土） 全国主要地区開催/申込開始4月1日（金）
- ◆受験料：一般 7,350円/エコビープル 5,250円（税込・資格登録費用含む）
- ◆公式テキスト販売：書店で購入できない方は¥2,625（税込、送料込）でお送りいたします。

リスクマネジメント国際標準規格 ISO31000について

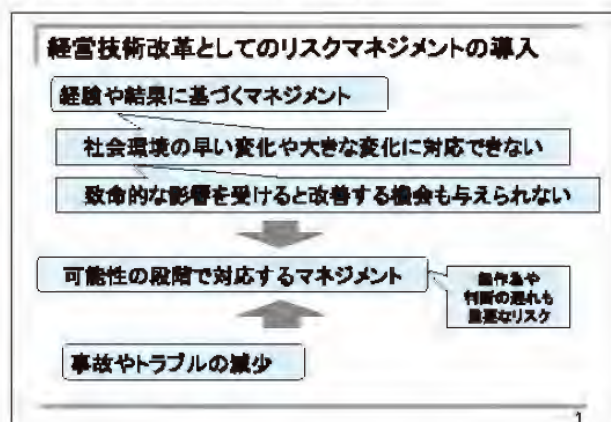
株式会社 三菱総合研究所 研究理事 野口 和彦氏

本稿は昨年12月東京大井町きゅりあんにて開催された第17回テクノファ年次フォーラムの講演からリスクマネジメント—ISO31000規格/JIS規格の作成に深く携わってこられた株式会社三菱総合研究所野口和彦様の「ISO31000規格（リスクマネジメント）について」を紹介します。

皆様こんにちは。年次フォーラムにお招きいただきましてありがとうございます。

ISO31000は2009年11月に発行されました。2010年9月にJIS規格化した状況であり説明会を開催しているところです。そのような中である質疑応答の際「この話は民間企業、行政にとって非常に有意義だと思いますが、今この話は是非政治家に聴いていただきたい」との発言がございました。また、リスク学会での基調講演では「リスクマネジメントは自然科学ではなく社会科学であり人文科学でありその時の状況によって変わるものです」と申し上げました。ISOの標準化というのは各国、各所で行なわれている考え方で最も共通している部分を標準化して設定することが多かったのですが、このリスクマネジメントの基本的な考え方はひとつです。どういったリスクマネジメントの適応をすれば、これから先組織にとって最も有効かという点です。従って今までのリスクマネジメントの考え方で不足していたと思われる部分もかなり含まれております。そのような観点でお聴きいただきたいと思います。

■ リスクマネジメントの導入



まずリスクマネジメント導入の背景ですが、ひとつには「経験や結果に基づくマネジメント」の限界が見えてきたことです。「経験や結果に基づくマ



ネジメント」では、あるトラブルが起こるとそれを皆が認識しますから変えることに反対はありませんし、失敗を工夫して無くすことで次は上手くいくと皆考えますから、そういう意味では合理性、説得性があったと思います。ただ、このマネジメントには「社会環境の早い変化や大きな変化に対応出来ない」という問題が出てくる場合があります。世の中がゆっくり変わる、もしくは変化がなければ去年・今年と問題点を潰していけば来年は確実に良くなるでしょうが問題は今までとは違う事態が生じた場合に、過去の失敗経験に基づいてクリアできても来年同じ対策が通るとは限らないという弱点がありました。もうひとつの問題点は失敗に学ぶ範囲には限界があるということです。最近の社会要求は厳しく、大きなトラブルを起こすとリトライを認めてくれません。失敗してからでは間に合わない世界がここにあるということです。こうしたことから「経験や結果に基づくマネジメント」から「可能性の段階で対応するマネジメント」に変えていかなくてはならないという大きな考え方の転換がありました。ところが「可能性の段階」とは組織だけの問題ではなく社会環境との差が大きいということがあり、そうすると無作為や判断の遅れも重要なリスクになっているのです。今までのリスクとは悪いことをする、判断を失敗することが問題である、という捉え方でしたが、世の中との相対的な差が問題になる現状を考えると全

evaluationというタイトルになっています。9.1Monitoring, measurement, analysis and evaluation、9.2Internal audit、9.3Management reviewの要求事項になっています。10章改善では不適合を是正するというので、10.1是正処置、10.2継続的な改善となっています。今の構想では是正処置、予防処置は一緒によいとされています。

こうした構成が最終段階で提案され、これから各々のTCで投票を行ない、順調に進めば2011年4月頃には新しい規格の適用が求められます。今あるものは次の改定まではそのままで行きますが、4～5年にわたって徐々に新規格にそって入れ替わることになります。

次はもう一つのタスクフォースです。以前から用語の定義をきちんとしようと言われているところですが、規格によって同じ言葉でも意味合いが多少違う、あるいは定義でも細かい部分が違うため非常に使いづらいとのことで幾つかの言葉が共通化されています。

TF2(用語の定義、使い方)

●非英語圏からのコメント

- ・Assessment—evaluation
- ・Goal—target—objective—aim
- ・stakeholder—interested party
- ・identify—determine
- ・ability—capability—competenceなど

●Term(定義が必要なもの)とWord(定義をしないもの)を区別する。

12

スライド12: 議論にはAssessment-evaluationなど非英語圏から言葉のニュアンスの違いが訳せば同じになってしまい困る、Goal-target-objective-aimはどう違うのか、またstakeholder-interested party、identify-determine、ability-capability-competenceなどありますが、一つ概念は一つの英語に決めてニュアンスの違いをちりばめるような表記は止めて欲しいという方向になっています。

例えばPerformanceはカタカナで「パフォーマンス」と翻訳していますが、定義をはっきりしようところではmeasurable outcomeとして、outcomeには初期段階と最終段階がありPerformanceの意味する最終の成果と同時に経過状況、発生状態をも含むという概念にしようとしています。competenceとかmanagementもなか

なか英語圏以外では訳しづらい、またstakeholderとinterested partyについても検討され、aim-goal-target-objectiveでも言葉の定義を巡って整理が進んでいます。assessment-evaluationではevaluationは価値を決定すること、assessmentには決定するための評価も入っています。plan,planning-programmeでもingが付くと「活動」、planだけならば「活動の結果」「計画書」のようなイメージがあるし、programmeは少し幅広いイメージになるなどの整理を今JTTCGが行なっています。2011年4月以降にこれらのoutputがきちんと出てくれば我々の理解も更に整理されて使い勝手のよい規格になるのではないかと期待しているところです。記録と文書では記録も文書の一部でdocumented informationは磁気記録されたものやフローチャートも範中に入る意味合いを一括して表現しています。JTTCGの国内委員会では月一回位の頻度でこうした議論を進めています。まだ幅広く皆様方に伝える機会が少ないので今日ここで日本規格協会が事務局になってこのような動きを進めているという報告をさせていただきました。

■Future ISO9001

スライド24: 次に9001の状況ですが、先日オーストラリアシドニーでTC176の会議に出席しました。次期9001に向けての望ましい規格について世界的な調査ユーザーニーズ調査が進んでいます。2011年1月末までに1万件を世界から集めたいということで、皆様も日本規格協会のホームページから入れますので是非調査に参加して頂きたいと思えます。

ISO9000ですがこれは用語とか定義を決めている規格で9001が2008年に改正、9004も2009年に改正されたことに伴い言葉も概念も多少変化し

Future ISO9001(次期改正検討)

1. 作業スケジュール

- ・12月13日～17日 :シドニーTC176/SC2総会においてISO9001時期改正について議論、2015年を目標。

2. 活動内容及びアウトプット

- ・次期ISO9001はどのようなコンセプトのもとに検討を行うか、また、次期改正への可能なインプットには何が
あるかをレビュー

- ISO9001Nextビジョンに関する要素レポート(Recommendation Report)の承認
- ISO9001改正に関するユーザーニーズ調査実施
実施中、2011年1月末まで、出来るだけ多くの人に参加を促す
- ISO9001改正に関するアイデア、コンセプトの継続検討
- 今後ISO9001改正の設計仕様書、妥当性評価など

24

ているのであれば、基本を決めている9000も変えたほうがよいだろうということでした。しかし、箇条2にはQMPというマネジメントの原則が入っていて、飯塚先生を主査とする国際会議で現在の8原則を増減も含めて見直しを行い始めましたので、どう変えるのかの議論をしていただいてそれらも絡みますので9000は当面改正されない状況にあると思います。

9001は2015年を目標に進めています。規格のコンセプトではキーになる言葉が沢山あります。例えばプロセスの概念はどうだろうと世界の文献を幅広く集めて分析をしています。様々な産業界に貢献できる使い易い規格の作成にはデザインスペック（設計図）を作っていかなければならないのですが、その時に予想される幾つかのコンセプトを深く掘り下げる議論をしています。普遍的に妥当な言葉にはコンセプトの整理が必要で、用語がきちんと定義されるという作業を2011年2月頃までにする予定です。どの様なコンセプトがあるか、下の表にざっと挙げてみました。

Future ISO9001 (次期改正検討)

Concept Title

1. 組織の財務資源 (Financial Resources of the Organization)
2. コミュニケーション (Communication)
3. 時間、スピード、機敏性及びそれらに関する側面 (Time, Speed, Agility, and Related Aspects)
4. 品質マネジメントの原則/リーダーシップ (Quality Management Principles / Leadership)
5. 事業マネジメントの運営との整合 (Alignment with Business Management Practices)
6. リスクに基づいた思考アプローチの取り込み (Inclusion of Risk based Thinking Approach)
7. ライフサイクルマネジメント (Life cycle management)
8. 計画、資源、生産、引渡し (Plan, Source, Make, Deliver)

25

Future ISO9001 (次期改正検討)

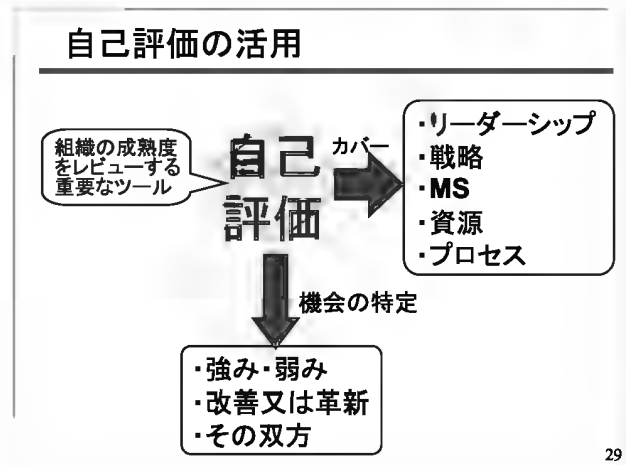
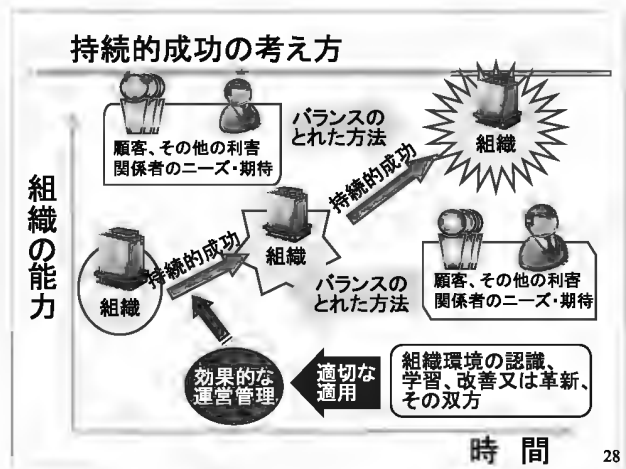
9. 製品適合性の重視 (Focus on product conformance)
10. プロセスの結果と有効性 (Process results and effectiveness)
11. 組織の多様な顧客の区分と差別化 (Clarification and differentiation of the multiple customers of an organization)
12. プロセスの革新 (Process Innovation)
13. 経営基盤の維持 (Maintenance of Infrastructure)
14. プロセスマネジメント (Process Management)
15. 知識マネジメント (Knowledge Management)
16. 力量 (Competence)
17. 品質ツール (Quality Tools)
18. QMSの構造とMSS運用との関係 (Structure of QMS and Relationship with MSS Work)
19. 情報管理の技術と変化の影響 (Impact of Technology and Changes in Information Management)

26

スライド 25 26: 1. 組織の財務財源、これは組織のマネジメントシステムになれば当然ファイナ

ンシャルソースは切っても切れない関係だろうということ。 2. コミュニケーション 3. 時間、スピード、機敏性、 4. 品質マネジメントの原則/リーダーシップ 5. 運営 6. リスクに基づいた思考アプローチ 7. ライフサイクルマネジメント、ライフサイクルも9001のコンセプトと関係があるということです。製品の廃棄やアフターサービス、リサイクル、リユースを取り入れた概念で品質を見ていく事を予測しています。 8. 計画、資源、生産引渡しなどがあります。 9. 製品適合性 10. プロセスの結果と有効性 11. 組織の多様な顧客の区分 12. プロセスの革新 13. 経営基盤の維持 14. プロセスマネジメント 15. 知識マネジメント 16. 力量 17. 品質ツール 18. QMSの構造 19. 情報関係、等のコンセプトをまとめてあります。

スライド28: 次はISO9004です。2009年に改正されJISも発行されています。「持続可能な成功を達成するための指針」という題で、(今までの9004は9001の追加説明をしたものでしたが) 新しい9004は一步踏み込んで(経営者が)組織が成功していると言えるためには何をすべきかを時間軸を設けて目の付け所を提示しています。



スライド 29: 9004のポイントは「自己評価」です。組織はマーケットの中でどういうポジションにいるのか、マネジメント状況を評価して改善に繋げ、成功が継続出来るようにするという事です。その他のISO9001関係、9000ファミリーではいろいろな動きがありますので情報としてお聴きください。
 スライド 30 31: ①ISO10001行動規範、組織が提供する製品に関して顧客満足を得るための、顧客に対する組織の規範事項についての指針ガイドであり今JIS化しています。

他ISO9000ファミリー規格

- ① ISO10001(行動規範)
 - ・組織が提供する製品に対して顧客満足を得るための、顧客に対する組織の規範事項についての指針
 - ・2007年11月IS発行済み(現在JIS化作業中)
- ② ISO10002(苦情対応)
 - ・組織が提供する製品に対する顧客からの苦情に対して、組織内部で対応するための指針
 - ・定期見直し投票の結果、「確認」が決定
- ③ ISO10003(外部紛争解決)
 - ・組織が提供する製品に対する顧客からの苦情に対して、組織内部で対応ができなかった場合に、裁判以外の手段で対応するための指針
 - ・2007年11月IS発行済み(現在JIS化作業中)

30

他ISO 9000ファミリー規格

- ④ ISO/TS10004(顧客満足の監視及び測定)
 - ・組織が提供する製品に対する顧客満足の監視及び測定についての指針(種々の技法などを紹介)
 - ・2010年4月15日にTS発行
- ⑤ ISO/WD10008(電子商取引)
 - ・COPOLCO(消費者政策委員会)提案の電子商取引に関するNWP投票結果、規格開発がスタート。2010年3月に第1回会議を開催。
- ⑥ ISO10018(人的側面)
 - ・効果的な品質マネジメントシステムの構築・運用を実現し、維持し、改善するために必要な、「組織の人々」の力量、認識、コミュニケーション、チームワークなど人的要素に関する指針
 - ・CD投票の結果:賛成多数(2012年2月発行予定)

31

②10002は苦情処理についてです。自分達が規範を決めてクレーム対応する。③は紛争になった場合裁判以外の手段で折り合いを付けるなどの対応をとる。裁判以外の進め方のガイドで消費者が不利益をこうむらないように確認するということが書いてありJIS化が進んでいます。④顧客満足、4,5年の間に10001~10004のシリーズが出来てしまいました。⑤WD10008、インターネットなどの電子商取引に関して消費者保護が不十分な為

に生じる被害に対してCOPOLCO(消費者政策委員会)からの提案で世界規格のガイド作成が2010年からスタートしています。⑥10018は人的側面、「人」がモチベイトされてはじめてチームとして力が発揮できる、力量、認識、コミュニケーション、ワークなどの一連の動きをガイドで示しています。2012年には発行が予定されています。⑦時間、スピード、機敏性をガイドにした規格の提案があり、Webでニーズの調査をしようというところです。

ISO14000ファミリー規格の動向

次はISO14000関係についてお話しします。これも非常に多くの規格が出ております。この機会に知っていただき世界の精通した方々が知恵を絞ったガイドを組織の参考にしていただければと思います。

14001は初版が1996年に出てもう14年経っています。2004年に小改正されて以来今の規格となりましたが、現在では2015年に9001と一緒に改正したらどうかということでJTCGの共通テキストに沿って作成されることとなります。ISO14005ですがこれは中小企業が14001を導入するに際し要求事項が多くあり多少障害になるかも知れないということで複数の段階に分けた規格ガイドになります。ISO14006はエコデザインでリサイクル、リユース可能な体系的に環境に適合した設計を行うガイド規格で、2011年7月の完成に向けて進んでおります。ISO guide64は環境にやさしい製品規格を作る課題を明確化したガイドで、すでにJIS化され2010年夏に出ています。ISO14050、これはISO9000規格と同様に定義を整理しておこうという規格でJIS化作業中です。こうした一連の他に環境関係ではシリーズが沢山ありまして、14020シリーズは環境ラベルのガイドで世界的にラベルを整理して消費者の戸惑いを軽減させる目的の規格です。次が14030シリーズ「環境パフォーマンス評価」で、これも発行されて10年位経ちますが環境保全に良いことの評価をする指標の規格です。14031、14032、14033と少しずつ見直されながら改正されています。次に14040シリーズ「ライフサイクルアセスメント」LCAと呼ばれています。14044、14045、14046と各々特徴を持った規格が改正されJIS化されてきています。

14051「マテリアルフローコスト会計」これは日本が提案して環境への取り組みをマテリアルフロー(貨へい価値)で評価しようという手法で、それを更に具体化しています。日本が事務局を務めています。14060シリーズはここ3、4年に比較

的新しく開発された温室効果ガス関係の規格で14064がベースとなります。内閣府でカーボンマネジメント人材育成協議会が設置されて私も委員ですが、14064をどう使うかも議事のひとつになっています。

ISO14064は温室効果ガス算定の規格です。60シリーズと称してISOの14065は検証する組織に対するガイド、14066は検証する要員、チームに対するガイド、14066は2011年に出る予定です。規格作りは世界的に進んでいますが、実はまだ温暖化効果ガスの削減に関してはいろいろな制度が複層しています。「京都メカニズム」(1997年京都でCOP3が開かれてそこで排出量取引を含めたCO2削減プロジェクトにおいて国別目標を持つと決められた)は2012年で終わるのですが、その後の見通しがはっきりしなため国際取引上では混沌としての一年となりました。14064はいろいろな制度を統合してGHGをどのように算定或は検証するかなどの活躍の場が期待されています。14067はカーボンフットプリントで製品が原料から廃棄されるまでCO2排出がどの程度になるか算定し評価してユーザーに示すガイドです。これらが14000ファミリーの最新の規格の進めている状況です。テクノファではホームページで情報を更新しながら載せておりますので、皆様方には各々の立場で是非興味を持って勉強していただければと思います。

■その他のマネジメントシステム関連規格

スライド42:最後に「その他」これが以外と沢山ございまして、これらもJTCCGで規格の整合性、同一テキスト作りの対象になっているものです。この後、野口さんにもお話いただくISO31000(リスクマネジメント)のガイドが出来ました。概に

リスクマネジメントの原則及び指針

① ISO31000(Risk management - Guidelines on principles and implementation of risk management:リスクマネジメント—原則及び実施の指針)

・効果的なリスクマネジメントプロセス及びその組織への適用に関する一般原則と活用に関する指針を提供

・一般的な概念を提供し、規格に規定するプロセス、原則を強制するものではない

・組織におけるリスクマネジメントの実施のための汎用的な指針

・国際規格(2009年11月15日発行)

・JIS規格(2010-09-21発行)

JIS Q 31000の詳細とその活用説明会 : 2011年1月28日(金)東京にて開催

42

JIS規格化されています。

ISO22301、これはすでにBS25999規格がいち早く国際的な認証制度と結びついてBCMS(ビジネス継続マネジメントシステムと呼ばれている)、規格として世界に紹介されております。テクノファでも“BCMS”の研修員コースがあり、数十人の方がすでに受けていらっしゃいます。今はBSの英国規格ですが国際規格にしようとしています。内容はテロとか災害地震発生後に組織がいち早く通常に復旧するために成すべきことを扱っている規格です。国も関心を持ち経産省だと産業界での部品調達、内閣府だと物資、ライフライン、情報ライン等の復旧に対応した規格として今後の取扱いを検討しているようです。すでに2010年8月富士通がBCMSの認証を受けています。

次はISO26000これも5年程前からCSRと云われて議論されてきましたが、やっと2010年11月1日に発行されました。規格の内容は「適用範囲」「用語」といった一連の続きとして「社会責任の理解」「社会的責任の原則」「社会的責任の認識及びエンゲージメント」「利害関係者との約束」「社会的責任の中核」が書かれています。この中核主題には安全、環境配慮、パワハラ、セクハラ、論理、法遵守などいわゆる企業が社会で存在してゆくのに最低限の遵守事項が盛り込まれているガイドで認証に使うのは意図しないとなっています。ただし、私的認証を受けて企業PRに使う動きも出てきています。

食品安全マネジメント

④ ISO22000(食品安全マネジメントシステム—フードチェーンの組織に対する要求事項)

・HACCPシステムと品質マネジメントシステムの考え方を組み合わせた規格

・定期見直し投票では「confirmation 確認」

-ISO/TS22002-1(食品安全の前提条件プログラム—第1部:食品製造)

-ISO/TS22003(食品安全マネジメントシステムの審査及び認証を行う機関に対する要求事項)

-ISO/TS22004(食品安全マネジメントシステム—ISO22000:2005適用のための指針)

-ISO22005(飼料及びフードチェーンにおけるトレーサビリティシステムの設計及び実施のための一般原則及び基本要素事項)

-ISO22006(品質マネジメントシステム—ISO9001規格の適用ガイド)

・FSSC22000(Food Safety System certification) 欧州GFSI(Global Food Safety Initiative)、コココーラ他

45

スライド45: ISO22000フードチェーンの食品安全マネジメントシステムです。最近の話題としてはコココーラが傘下の100社以上にこの取得を指示したということです。

スライド46: ISO27001情報セキュリティ関係です。最近情報漏えいでウィキリークスの話題が出ましたが規格の改定作業が始まっています。

情報セキュリティマネジメントシステム

- ⑤ ISO27001 文書化されたISMSを確立、導入、運用、監視、見直し、維持及び改善に関する要求事項を規定。管理策に関する要求事項を付属書Aとして規定。 -2005年10月に発行 -2009年、改定作業開始。
- ・ISO/IEC27001(情報技術 - セキュリティ技術 - 情報セキュリティマネジメントシステム - 要求事項)
- ・ISO/IEC27002(情報技術 - セキュリティ技術 - 情報セキュリティマネジメントの実施のための規範)
- ・ISO/IEC27003(情報技術 - セキュリティ技術 - 情報セキュリティマネジメントシステムの実施の手引き)
- ・ISO/IEC27004(情報技術 - セキュリティ技術 - 情報セキュリティマネジメントの測定)
- ・ISO/IEC27005(情報技術 - セキュリティ技術 - 情報セキュリティリスクマネジメント)
- ・ISO/IEC27006(情報技術 - セキュリティ技術 - 情報セキュリティマネジメントシステムの監査及び認証を行う機関に対する要求事項)

46

エネルギーマネジメントシステム

- ⑥ ISO/ PC242 /50001(Energy Management System - Requirements with Guidance for Use)

- ・現在、FDIS回付中(2011年4月発行予定)
- ・JIS化作業開始。
- ・国内では、(財)エネルギー総合工学研究所を事務局とする国内委員会を設置し、対応している。
- ・規格の目的は、組織がエネルギー効率等を含むエネルギーパフォーマンスを改善するために必要なシステムやプロセスを確立すること。
- ・ISO9001(品質)、14001(環境)と同様の認証用マネジメントシステム規格。エネルギーに特化
- ・エネルギー効率を組織のマネジメントに導入することによる、エネルギーマネジメントの枠組みを組織、施設に提供

49

ITサービスマネジメントシステム、これはISO20000と呼びましてIT業務をアウトソースする場合、見えない部分での費用見積もりが難しい、アフターサービスの条件など保証の範囲にあいまいさがあるため、国際的な一連の諸条件を要求事項として規定しています。自社で情報部門を管理する場合も役立つ規格になっています。認証用で2005年に出来て改正が始まってきます。

次はISO PC241、PCというのはProject Committeeの略で、最近出てきました。今までのTC、Technical Committeeでは規格が自己増殖してしまうという問題があり、ひとつの規格しか作れないPCが結成され、そこで規格の作成がされています。39001は道路交通安全マネジメントシステム規格です。日本では独立行政法人自動車事故対策機構が事務局になっています。トラック運輸、タクシー会社も含めて、組織は輸送システムを認識して事故防止のマネジメントシステムを構築してステークホルダーへの安全に対する信頼の証明にしてほしいという意図と規格です。認証用の規格です。

スライド49: PC241近いものが省エネルギー規格のISOPC242で50001として、2011年4月に発行される予定です。私も国際委員になっておりました最終段階にきました。先程も話しましたGHGの温室効果ガス削減と近い関係にもあります。エネルギー使用量を過去3年位から使用実績を算定し、ベースラインを決め、エネルギー削減作業や責任を組織内で確立する規格であり認証用です。2011年4月に向けての認証の体制も少しずつ進んでると思われれます。

沢山あるものを以上ざっと説明させて頂きました。ご静聴ありがとうございました。



テクノファNEWS 第90号

企画・編集/株式会社テクノファ

2011年2月1日発行

〒210-0007 川崎市川崎区駅前本町3-1 NOF川崎東口ビル

TEL:044-246-0910 FAX:044-221-1331

ホームページ⇒<http://www.technofer.co.jp/>